

《履修証明プログラム 開講時間割表（2018年度後期9月～2月）》

■=実習の各コース共通科目 ■=講義の各コース共通科目 ■=ガラス ■=ジュエリー

曜日	分野別 コース別	9:00	10:30	10:40	12:10		13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50
		1		2		昼休み	3		4		5	
月	ガラス					①ガラス・陶磁器演習Ⅰ（初心者～中級者） [67.5時間]<9601>						
	ジュエリー					②ジュエリー・メタルワーク演習Ⅰ（初級～中級者） [67.5時間]<9601>						
	講義										③模型・フィギュア造形論 [22.5時間]<8216>	
火	ガラス										④現代美術 [22.5時間]<1105>	
	ジュエリー										⑤クラフト実習A（初心者） [45時間]<9601>	
	講義										⑥美術工芸教育論 [22.5時間]<1105>	
水	ガラス											
	ジュエリー										⑧宝飾表現 [45時間]<9601>	
	講義	⑦アートマネジメント [22.5時間]<1105>										
木	ガラス						⑨ガラス・陶磁器演習Ⅲ（上級者） [67.5時間]<9601>					
	ジュエリー										⑩スケッチ・素描・イメージ [45時間]<3101B>	
							⑪ジュエリー・メタルワーク演習Ⅲ（上級者） [67.5時間]<9601>					
金	講義			⑫作品の見方 [22.5時間]<1106>								
				⑬色彩と表現 [22.5時間]<1105>								

※〔 〕内の時間は、15週の総時間数です。

【授業内容】

※さらに詳しい授業内容については、KDUポータル(<https://portal.kobe-du.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp>)
ゲストユーザーとして「シラバス」をご参照ください

- ①ガラス分野の基本的な技法をそれぞれ実験的な課題で研究し、材料に対する知識と表現の可能性を探ります。また、ガラスのテストピースを窯の温度、焼成時などで工夫しながら実験、研究を行い、窯に対する工学的な知識も学習します。
- ②金属を素材とするジュエリーや工芸表現などの様々な技法の基礎的な方法を学びます。金属の特性や道具の名称、扱い方などを学び、自身の創作活動の母体となる知識を身につけます。
- ③歴史、造形、材料、発想などの観点から、戦後の模型・フィギュアの変遷とその魅力について理解を深めます。
- ④現代アートを理解するために、アートの起源から特に近代以降の美術を中心に、実際の作家や作品に触れながら今日的意味やコンセプト(概念・発想)について学びます。
- ⑤クラフト領域各コースで扱う素材に関して、基本的な技法を一通り身につけます。
- ⑥芸術と社会の関係について、社会教育や地域づくりの観点から多角的に学び、「人と人をアートでつなぐプロジェクト」を企画できる能力を身につけます。
- ⑦クリエイターやアーティストを支援し、アートと社会をつなぐ「アート・マネジメント」の考え方を学び、アートやデザインプロジェクトについて企画運営の基礎的知識を習得します。
- ⑧金属工芸におけるジュエリー表現の中でも基礎的な石の知識、石溜め技法を学び、新しいデザイン、表現の造形力を身につけます。
- ⑨与えられたテーマに沿って、高度で洗練された課題作品を制作します。
- ⑩美術・クラフトのトレーニングとして表現の基礎を学びます。スケッチ、デッサン、クロッキーでモノを見る目を養い、多様な主題のスケッチ・素描を実践し、作品制作の基礎となる観察力と描写力を身につけます。
- ⑪与えられたテーマに沿って、高度で洗練された課題作品を制作します。
- ⑫作家に必要な「作品を見る力」を養うことを目的に実践的な学習を行います。
「作品をたくさん見る」ことを重視し、最後に作品の傾向や特徴を分析し、パネルにまとめ展示します。
- ⑬色彩を現実のアートやデザインに応用するために、ヒントとしての「色彩のしくみ」や「アートとデザインの実際」を多くのイメージ(写真など)を見ながら理解し、色彩感覚を高める方法を学びます。

【履修コース組み立てに当たっての注意点】

- 1プログラム、120時間以上になるように授業を選択してください。授業は毎週行われ、半期期間中、15回行われます。
- 受講者は個人のレベルを、おおむね3段階《初心者》《中級者》《上級者》を目安に組み立ててください。
- 1プログラムが完了した後、続けて次のプログラムに出願することができます。
- クラフトの実習は、個人単位の作業です。どの時間の実習授業を選択しても担当教員は、個人のレベルに合わせた指導を行います。
- 履修科目を登録する際に単位認定を希望する方については、プログラム修了時に審査の上、単位認定することができます。なお、一度単位を認定された科目については、次年度以降に再履修しても単位認定を受けることはできません。

【履修モデル（参考）】

《初心者の方…経験のない方》

- ◎講義から「作品の見方」「現代美術」の2講座
- ◎実習から「クラフト実習A」「ガラス・陶磁器演習I or ジュエリー・メタルワーク演習I」を中心に2講座

《中級者…工芸系専門の高等学校または、カルチャーセンター等で実技を経験した方》

- ◎講義から「模型・フィギュア造形論」「色彩と表現」の2講座
- ◎実習から「クラフト実習A」「ガラス・陶磁器演習III or ジュエリー・メタルワーク演習III」を中心に2講座

《上級者…4年制の専門大学または専門学校等で実技習得した方》

- ◎講義から「アート・マネジメント」「美術工芸教育論」の2講座
- ◎実習から「宝飾表現」「ガラス・陶磁器演習III or ジュエリー・メタルワーク演習III」を中心に2講座